

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導方法等の改善計画の策定及び活用

東広島市立三ツ城小学校

## 1 本校の状況

### 【平均正答率の比較】

	国語 (%)	算数 (%)
三ツ城小学校	81	73
広島県	69	64
全国	67.7	63.4

本校の正答率は、「国語」は全国より大きく上回り、広島県の平均と比較しても、12ポイント上回った。

「算数」も全国の平均より大きく上回り、広島県の平均と比較しても、9ポイント上回った。各教科の詳細については以下に示すとおりである。

## 2 各教科の分析結果と改善のための方策（○成果、●課題、→対策、◇改善計画）

### 【国語】

○全ての問題において、正答率が県平均・全国平均を上回ることができた。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

●目的や意図に応じて必要な情報を分類・関係付けて問題に解答することに課題が残った。

●叙述を基に自分の考えを60字～100字の記述でまとめる問題では、言葉の引用はできているが自分の考えを書いていない誤答が21.9%あった。

→国語科や朝の帯タイムの「話す・聞く」活動において、相手や目的に応じて必要な資料を用いながら表現を工夫する活動を行う。

→「読む」「書く」活動において、文章から読み取ったことについて自分の考えをまとめる活動を行う。

### 【算数】

○全ての問題において、正答率が県平均・全国平均を上回ることができた。

○記述式の回答は、正答でなくても、無回答ではなく、正答に近い文章まで書くことができた。

●思考・判断・表現の文章問題について、題意を把握する力を強化する必要がある。

●多くの情報の中から、必要なものを取捨選択するなど、情報を整理する力を身に付ける必要がある。

→朝の帯タイムでタブレットを活用して「知識・技能」の力を確実に定着するとともに、授業において「思考・判断・表現」の力を身に付けていく必要がある。

→どの言葉に注目して解くのか、算数用語（直径、一辺の長さ、体積等）を使った説明力を身に付ける。

→児童が情報を整理できるように、教師の発問を工夫する。

### 【国語と算数の改善計画】

◇国語科、算数科等の授業において、課題に焦点化した指導を行う。

◇朝の帯タイムの時間で、タブレットを活用した習熟を行い、個に応じた基礎的な学力を高める。また、付けた力を焦点化した取組を行う。

◇単元別テストで、個々の学力定着について把握し、指導方法の改善に生かす。

◇本校の研究組織を生かして、主体的に学ぶ児童を育成するとともに、職員が授業改善をできるようにする。

◇CRTを活用して、1年の学力向上に向けた取組を検証して、中学校との連携を図った取組を実行する。

### 3 児童質問紙【児童実態】の調査の結果と改善のための方策

#### 【学習状況（生活実態）調査の結果】（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計%）（抜粋）

	三ツ城小	広島県	全国
1 朝食を毎日食べている。	96.2	93.5	93.7
2 学校の授業時間以外に、平日の1日2時間以上PC・タブレット等のICT機器を勉強のために使っている。	11.6	7.5	7.5
3 平日、1日当たり2時間以上テレビゲームをする。	15.4	31.8	30.3
4 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	97.1	97.4	96.7
5 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	77.9	70.9	67.1
6 人の役に立つ人間になりたいと思う。	98.0	96.4	95.9
7 あなたの家にはおおよそどれくらい本がありますか。（100冊以上）	34.6	32.3	31.9
8 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	93.2	82.2	81.9
9 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	90.4	79.7	79.6
10 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。	98.1	90.7	87.9
11 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。	89.4	83.7	84.2
12 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	94.2	89.9	88.2
13 国語の勉強は好きである。	74.0	62.4	62.0
14 算数の授業は好きである。	78.9	61.2	61.0

#### 【結果の分析と改善のために方策】

- 朝食を毎日食べていると回答した児童は、広島県平均、全国平均より多い。
- タブレットを勉強に2時間以上活用していると回答した児童は、広島県平均、全国平均より多い。2時間以上テレビゲームをしていると回答した児童は県平均、全校平均より少ない。
- 課題解決に主体的に取り組むと答えた児童が93.2%と多く、自分の考えをまとめる活動も各教科の授業の中で経験したと回答した児童が県・全国平均より多い。
- 国語科、算数科の授業に対して肯定的に捉えている児童が県・全国平均より多く、授業やテストのフォローアップを感じている児童が県・全国平均より多い。
- 困りごとや不安な気持ちを学校の教職員にいつでも相談すると回答した児童は、県・全国平均と比べて多い。  
→朝食を毎日食べると答える児童を100%にするために、養護教諭と連携をとって保健指導を行うとともに、保健だよりを活用して保護者に啓発する。また、タブレットやテレビゲームの使用時間について保健の授業や学級活動の時間で注意喚起をする必要がある。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと全ての児童が理解できるように、道徳や学級活動の時間で学級全体で考えて児童が意見を交流する時間をもつ。また、いじめゼロ宣言をいつでも確認し、実践していく。
- 管理職や関係者と連携をとりながら学年部を中心としたチーム体制で学校における指導を続ける。児童の相談体制についてもこれからもチームで行い、即時に対応できるようにする。